



とねいこ

力合小学校だより
令和元年6月25日
児童数：548名
文責：校長 乙丸孝嗣

自分も友達も大切にする力合小を目指して

熊本市は6月をいじめ根絶月間として全市的に取り組みを強化しており、本校も学校・学級でいろんな取り組みを行っています。4日の全校朝会では「私の妹」という本の読み聞かせをしました。自分の妹が実際にいじめを受け、家族全員が苦しんだことを全国の子ども達に知ってもらいたいという一心で、そのお姉さんが執筆した本です。最後は「死」を選んだ妹が残した手紙「いじめた人は私を忘れたでしょうね。遊びたかったのに。勉強したかったのに。」というメッセージが心に重くのしかかる本です。一言もしゃべらずに教室に戻っていく子ども達の心の中に、いじめられる人の辛さ・苦しさがしっかりと伝わっていることを願っています。『いじめのない力合小』を目指し機会あるごとに子ども達の心に届く話をしていきたいと思ひます。尚、学級では今週から「個別面談」を実施しております。面談は、子どもの日頃思っていることをじっくりと聞き、その思いに寄り添い、何か心配事があれば早急に対応できるようにしていくよい機会としています。



水泳シーズン到来

5日の午後、暑い中、2時間半かけて6年生がプール掃除を行い、藻や苔がきれいに取れ、とても美しいプールに



生まれ変わりました。おかげで、全学年のプール開きが気持ちよく実施できました。北島康介選手は金メダルを取れた1番の理由に、小学校の水泳の授業が楽しかったことをあげています。なぜかという、水泳が楽しかったおかげで水泳がとても好きになり、大人になっても水泳を続ける原動力になったからだと言っています。これからプール納めまでの水泳を、本校の子ども達にも大いに楽しんでくれることを期待しています。

「ピコ」のお話し会



年間約30回程度、木曜日の朝の活動時間に読み聞かせボランティア「ピコ」のみなさんが各学級に入り、本の読み聞かせを実施しておられます。子ども達は、この時間をとても楽しみにしており、写真のように毎回食い入るように聞いています。また、学期1回、昼休みに全校児童に呼び掛けて「昼休みお話し会」も実施され、多くの子ども達が集まっています。

「ピコ」の皆様のおかげで、読書好きの子どもを育む一助となっており、心より感謝しております。



スポーツテスト



5日、3年生以上を対象にスポーツテストを行いました。昨年度は、本校と熊本市の平均を比較して「投力」「握力」「柔軟性」がかなり下回っていることが分かり、体育委員会を中心に朝は種々の運動、昼休みは「記録に挑戦」等の取り組みを実施しました。今年度の結果は、1学期末頃に出るようです。取り組みの効果が出ていることを願っています。

授業におけるタブレットの生かし方

市教委より、3クラスに1クラスの割合でタブレットが配付されました。そこで本校では、学年内で各クラスの使う時間を相談しながら活用しています。今年度は、本校研究テーマを「ICT（タブレット等）の効果的な活用を通して」として研究を進めていきます。教職員は、校内研修の時間に専門家を招き操作方法を習い、子ども達は月に数回市教委よりICT支援員が来校し指導を受けています。このタブレットは授業の多くの場面で生かすことができ、教職員はその場面を模索していく研修を積んでいきます。授業で生かされる場面として、班で話し合ったことをタブレットに書き込み大型テレビに映し出して全員で共有する・植物を育てるとき毎日の成長を撮影し保存していくことで成長の過程を視覚化する・算数で自分なりに解いた方法をタブレットに書き込んで大型テレビで映し出し説明する・跳び箱で自分のフォームを友達に動画で撮影してもらいフォームの課題を明確にする・インターネットで調べたことをパワーポイントで作成して発表する等々、使い方は多岐にわたります。各教科でどのようなタブレットの効果的な活用法があるかを研究し、子ども達に分かる授業、意欲が向上する授業を目指していきます。



教育実習生



林田久司先生

山口芸術大学の林田久司先生が、前期（6月）後期（10月）に合わせて4週間、本校で実習されます。前期は6月17日（月）～28日（金）までの2週間、4年3組に入ります。全校集会で自己紹介する時、校歌を上手に歌って本校卒業生であることをアピールし、子ども達から拍手喝采を受けていました。

「引き渡し訓練」

ご協力 有難うございました

先週の土曜日に実施しました「引き渡し訓練」では、皆様のご協力のおかげで車が渋滞することもなく、昨年度より40分も早く訓練を終了することができました。もし、今回の訓練で何かお気づき等がありましたら学校までお知らせ頂ければ助かります。



「我慢強さ」と「学力」の相関関係

表題を見られて、「我慢強さが学力に関係があるの?」と思われた方も多かろうと思います。以前、アメリカの学者が行った「マシュマロテスト」という大変興味深い研究調査がありました。およそ以下のような内容です。『未就学児の我が子に留守番をさせて母親がこう言います。「お母さんはこれからお出かけるから、ちゃんと留守番しておいてね。それと、テーブルに置いてあるマシュマロは、お母さんが帰って来るまで絶対食べちゃだめだよ。」と言って家を出て行きます。すると、当然、食べてしまう子と食べずに我慢する子に分かれます。その学者がすごいところは、たくさんの子どもにこの実験をして、その子ども達を10年以上も追跡調査をしたところ。結果は、全米の大学入試検定検査において食べた子どもと食べなかった子どものグループの平均点の差が210点も開きました。もちろん、食べなかった子どものグループの平均点が高かったのは言うまでもありません。この学者は次のように結論づけました。【子ども達が力を発揮するためのカギとなるものは、IQの高さではなく、我慢強さだ。】全ての子ども達がこの結論に当てはまるとは思いませんが、確かに我慢力（＝忍耐力）がある子は何事にも最後まで頑張り通すことができますので、あながち的外れの結論ではないのではなかろうかと思えます。ご家庭でも、我が子に「我慢強さ」を身に付けさせる躰を是非実践してみられてはいかがでしょうか？